





















警告

東仲間集落より
皆様にお願ひします。
私有財産であり
集落ブランド品です。
何者も一切採取(採集)を
禁止します。

東仲間集落民一同
代表 川畑 祐孝

モダマ自生地
（天然記念物）
モダマは、日本の固有種であり、その分布域は極めて狭く、本県にのみ生息している。その数は減少傾向にあり、絶滅の恐れがある。そのため、本県では、モダマの生息地を天然記念物として指定し、保護している。この生息地には、モダマの生息に必要な環境が保たれている。この環境を破壊しないよう、採取や採集を禁止している。また、この生息地には、モダマの生息に必要な環境が保たれている。この環境を破壊しないよう、採取や採集を禁止している。

奄美市指定文化財
モダマ自生地
(天然記念物)

モダマは、マメ科のつる性常緑植物です。そのさやは、大きなもので長さ1~1.5m、幅10~15cmにもなり、種子が10~15個ぐらい含まれています。その種子も大型で、直径5cm前後あります。ツヤのある黒褐色の堅い種子ですが、浮力があるので、海流に運ばれて遠方に漂着することもあります。

熱帯・亜熱帯地域に広く分布、海岸近くの常緑林に生育しています。日本では、屋久島を北限として、以南の南西諸島に分布しています。奄美大島では、唯一この東仲間集落（奄美市住用町）に自生地が認められます。

そうした希少性から、平成4年9月1日、住用村指定文化財に指定され、現在に至ります。

このモダマ自生地は、奄美市指定文化財として保護されています。奄美市教育委員会の許可を得ずに、勝手にさややつるを伐採する行為、あるいは周辺で工事等を実施することなどは、奄美市文化財保護条例で禁じられています。学術研究や周辺工事等で許可を必要する場合は、奄美市教育委員会（0997-54-1210）にご相談ください。

奄美市教育委員会

モダマ (藤玉)
 マメ科学名: *Entada phaseoloides*
 原産地: 東南アジア

モダマは、アフリカからアジアまでの熱帯と亜熱帯のマングローブ林や海岸近くの常緑樹林で見られるつる性のマメ科常緑植物です。大きな豆のさやは木質で長さ1m、幅10cmにもなる世界最大の豆です。モダマの種子はとても堅く、また、内部に空間があり、海水に浮かぶことができ、種子が海流に乗ってモダマの分布を広げているようです。ここ住用でも漂着して根を張ったものであると考えられます。古くは、薩摩の代官が派遣され、島吏の職務が設けられていた時代に、植藤(もだま)見廻り役2名いたことが書き記されています。(笹森儀助氏の「南島探検2」参照)。また、そこには、「植藤子(モダマ)住用に生ず。薬入れに宜し。又煙硝入れによし」(名越左源太氏の「南島雑話2」参照)と書かれ、モダマの種子を貴重なものとして扱われていたことがわかります。

花期 五月下旬～六月上旬





















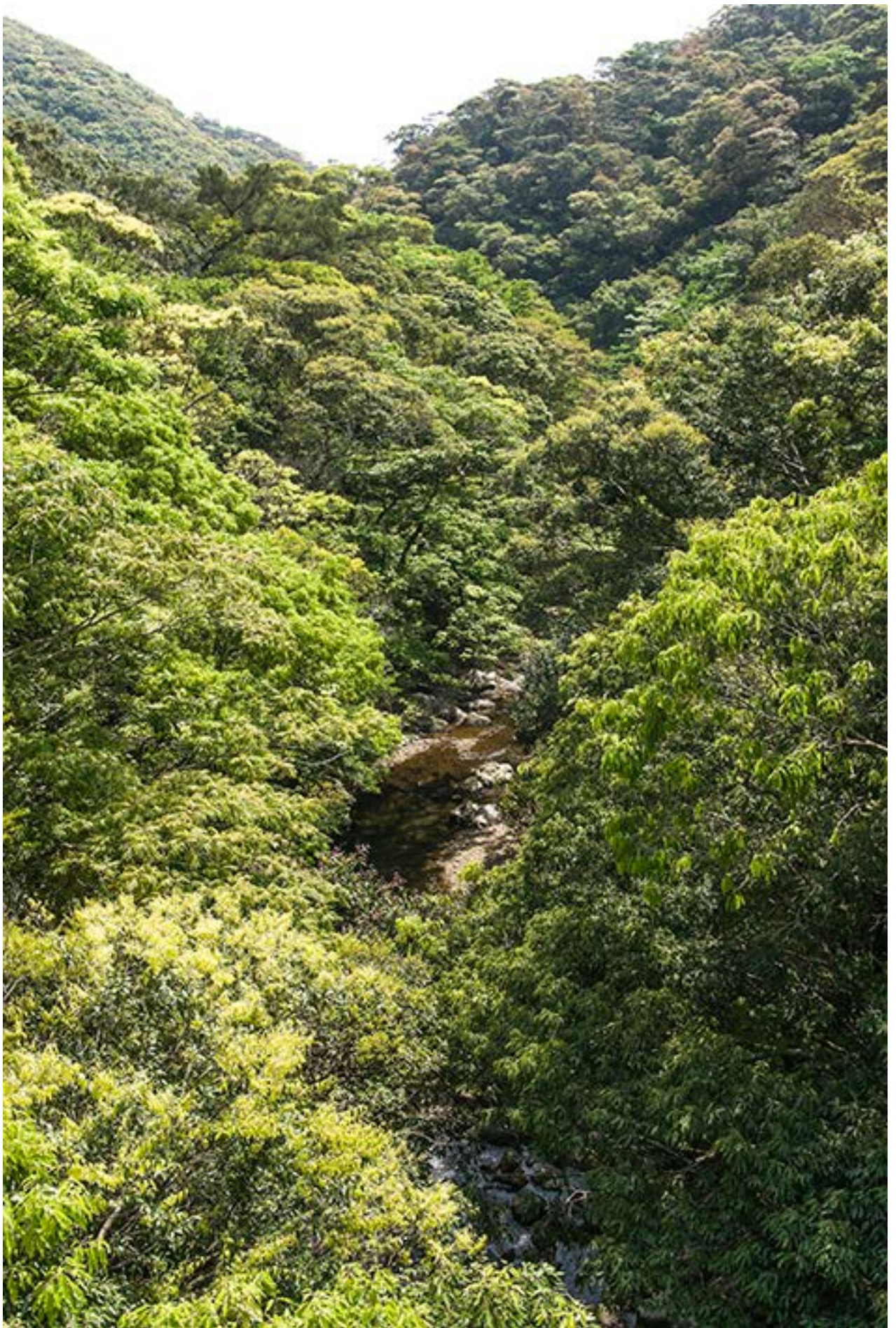




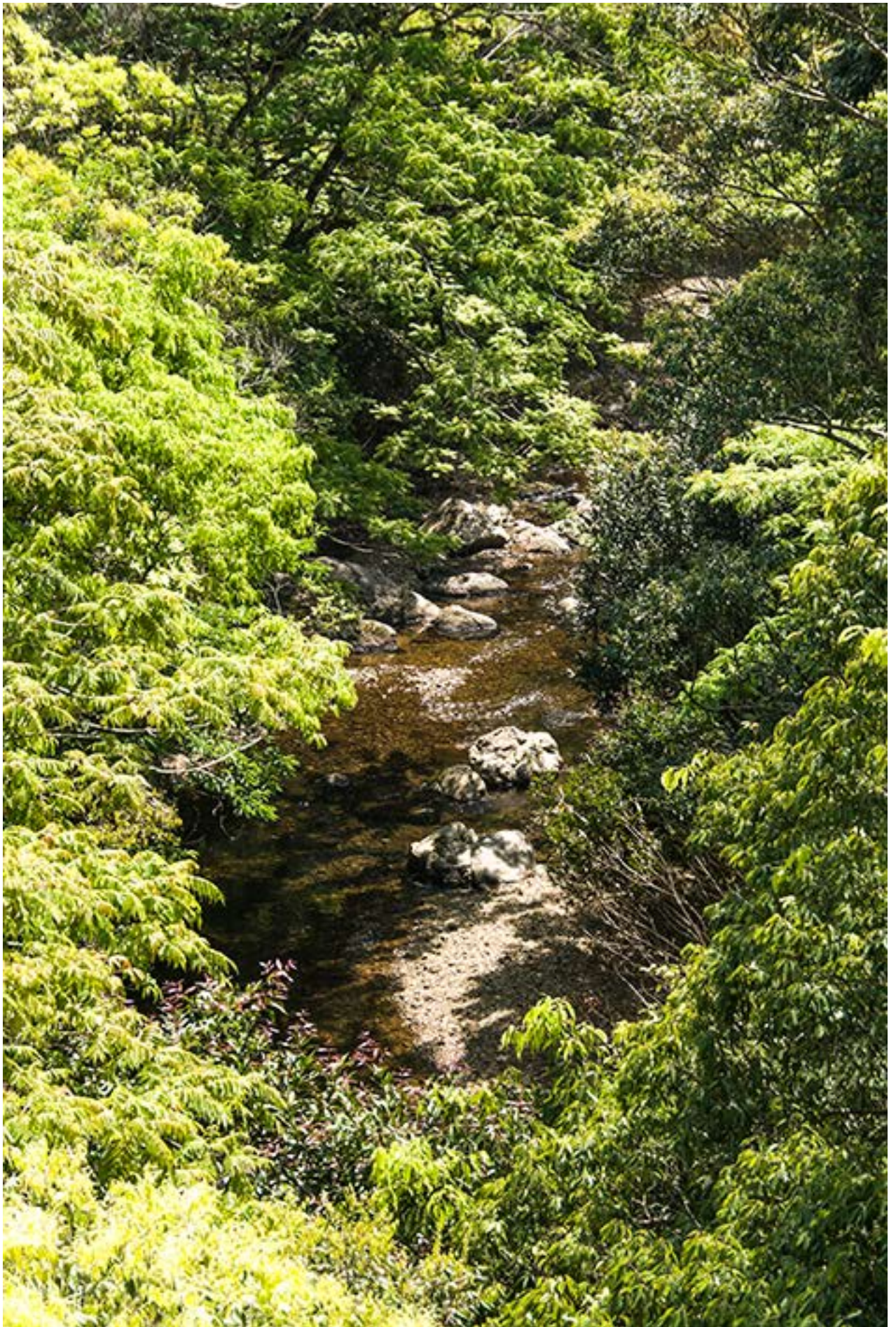


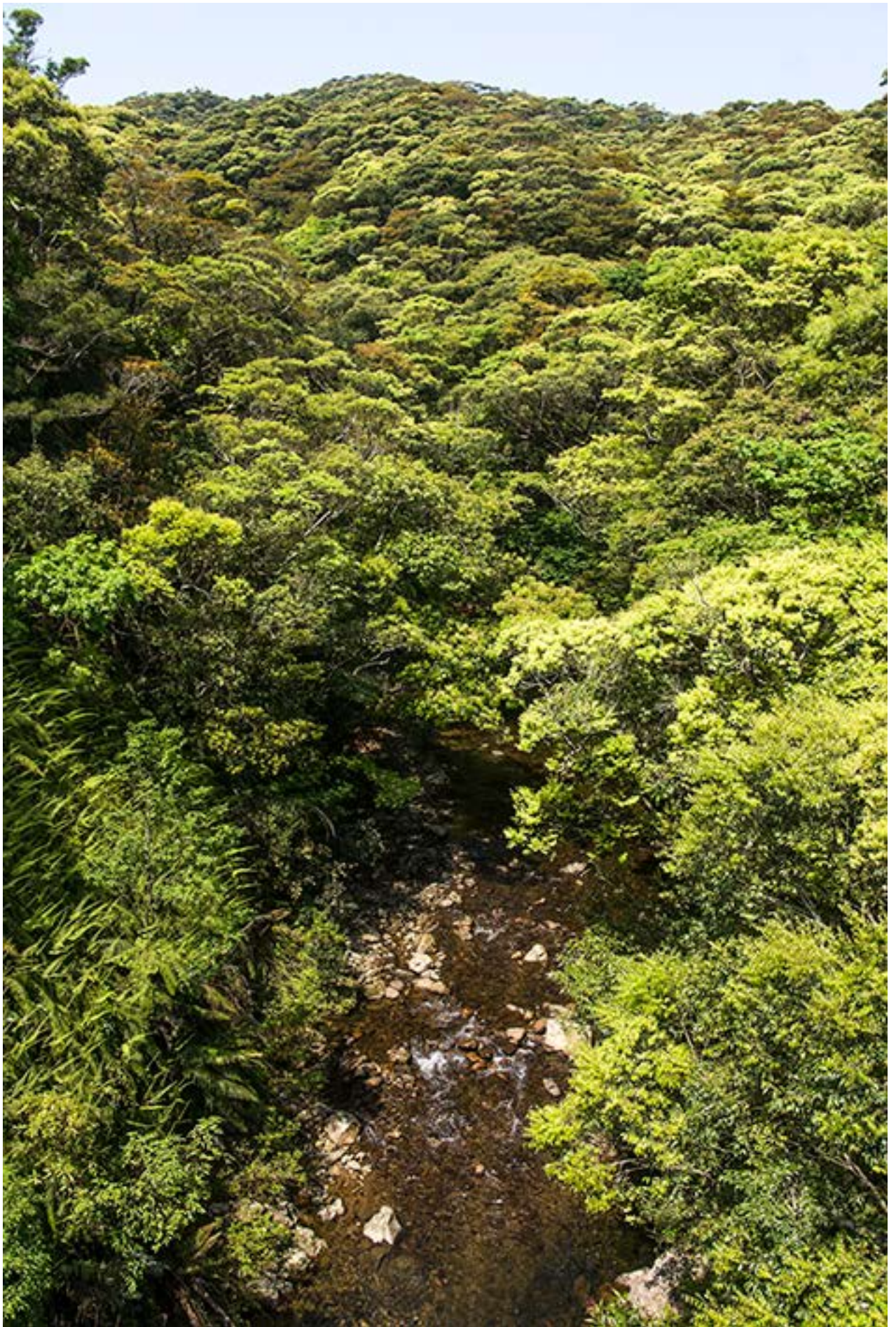








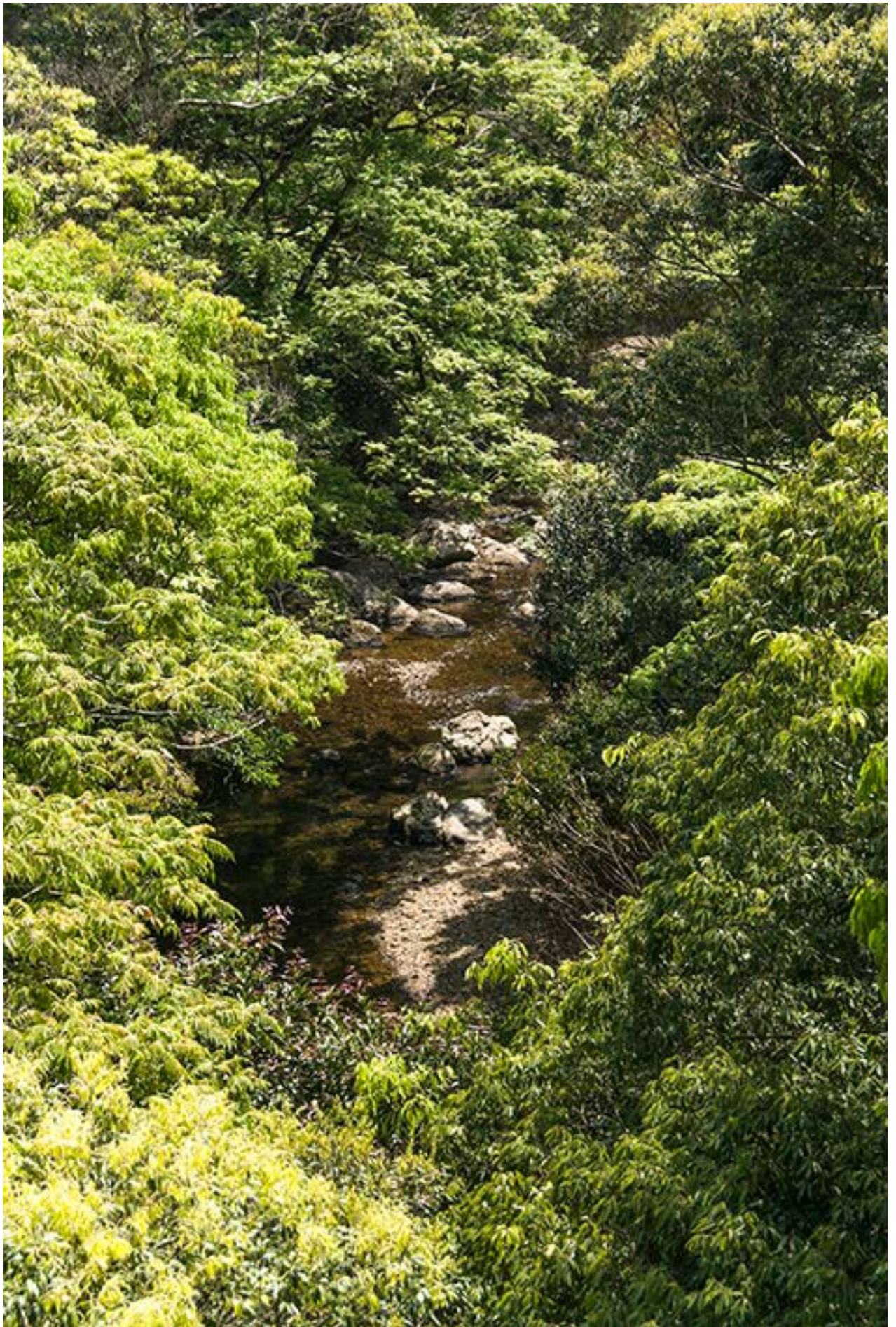


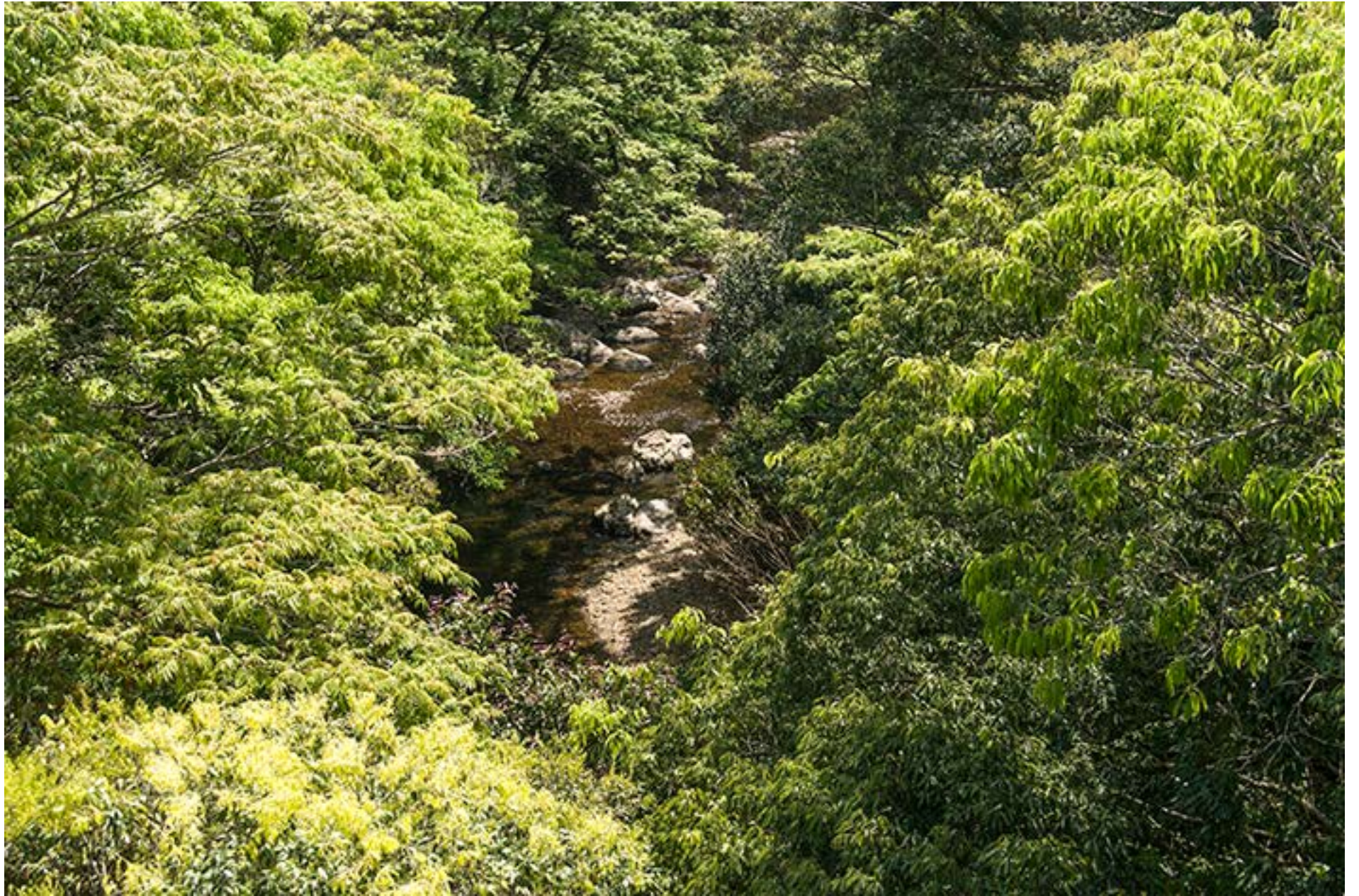






























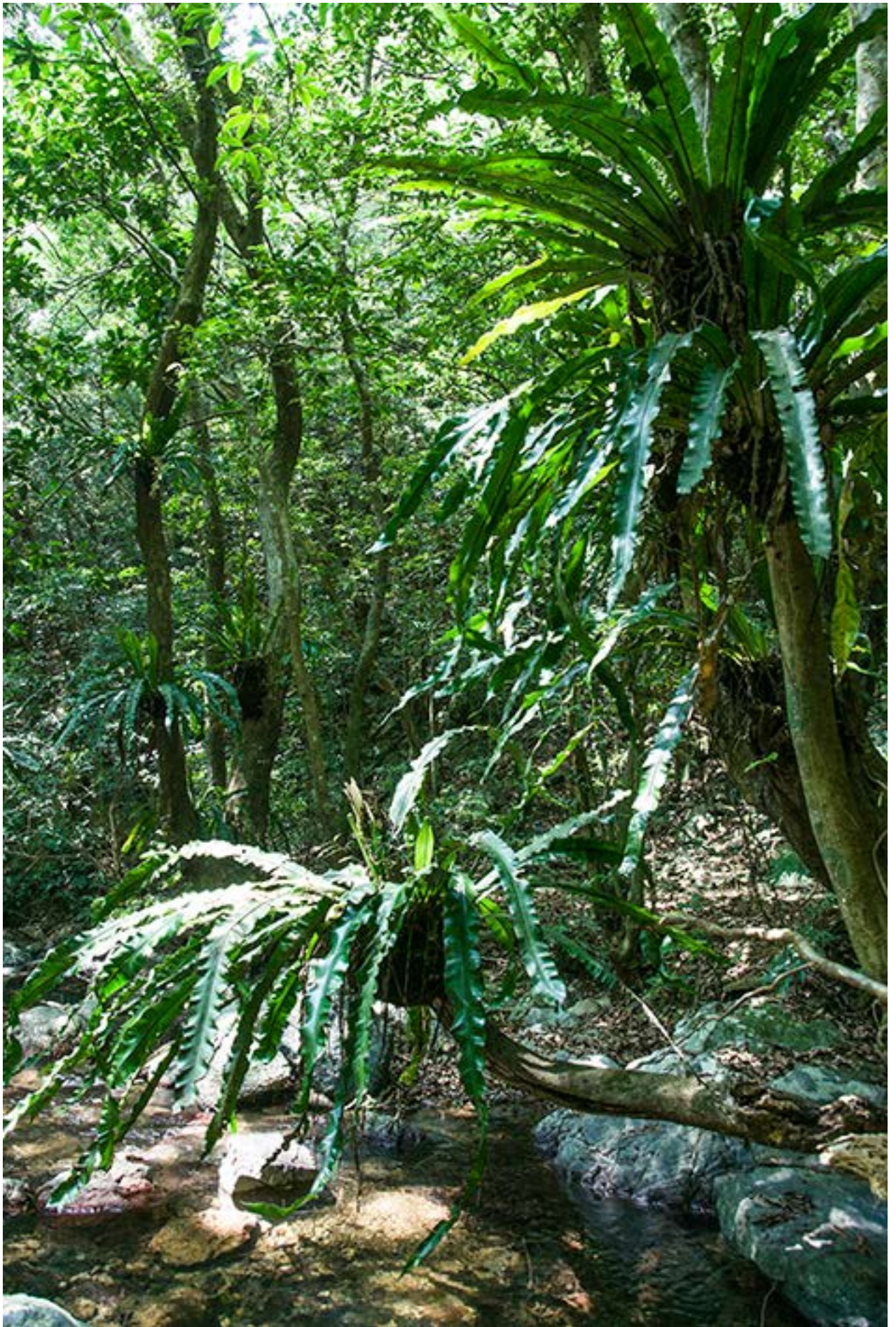






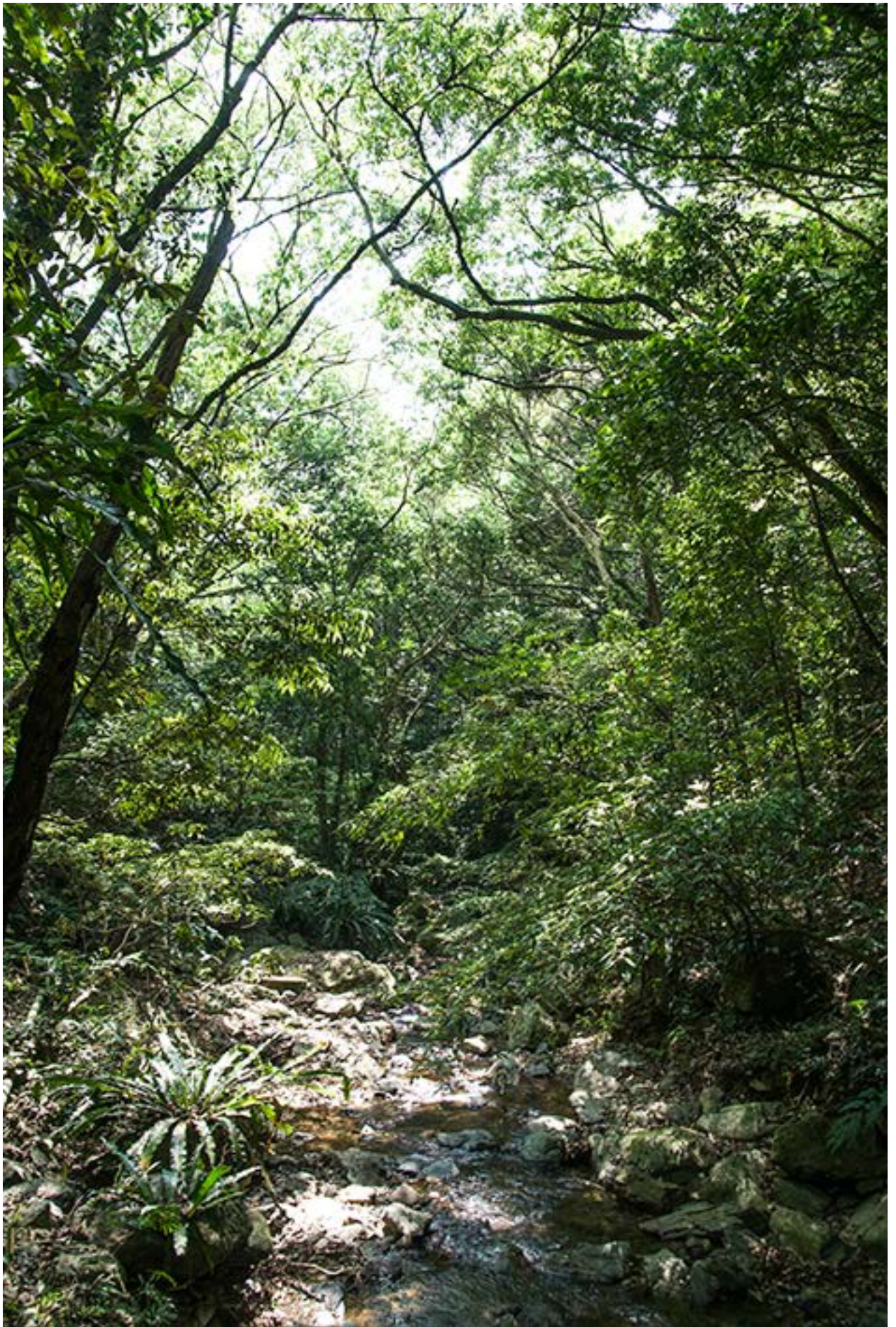
















































第20号

きよらじま



オヒルギ

2010年
奄美の自然を考える会